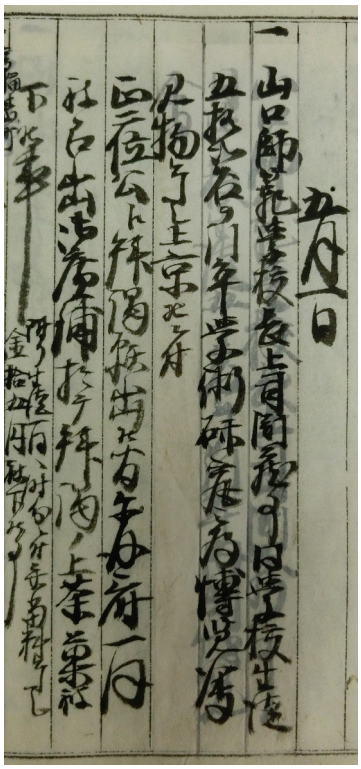
五月一日

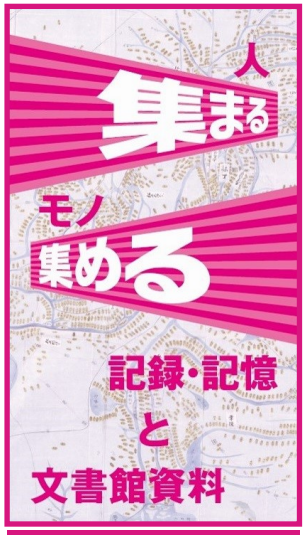
一、山口師範学校長上司淵蔵事、同学校生徒五拾弐名ヲ引卒（率カ）、学術研究之為博覧会見物として上京候二付、

正二位公（毛利元徳）江拝謁願出候間、午後三時、一同被召出、御広鋪於テ拝謁ノ上、茶菓被下候事、

附り、生徒一同へ時分二付弁当料として金拾五円被下候事、



「用達所日記」明治23年５月１日条より（毛利家文庫19日記65（30の14））



⇨ 5

人 ⑤

明治期、毛利家に集まる人々（２）

《山口県ゆかりの高官集う》

引き続き毛利家文庫に含まれる明治期の日記の記事から、毛利家に集まる人々を見ていきます。

山口県出身の政府高官、貴族院・衆議院議員、上京してきた高位の軍人、府県知事が毛利家の招きをうけることがありました。

例えば、明治24年（1891）3月12日、山口県選出の貴族院・衆議院議員が毛利家に招かれ、饗応を受けています。前年に開設された帝国議会を受けてのもので、来邸人として、瀧口吉良・吉松三郎・大岡育三・野村慎造・吉富簡一・井上正一・堀江芳介・吉川務の名が挙がっています（毛利家文庫19日記65「用達所日記」（30の14））。また松本鼎は和歌山県選出ながら、山口県出身であることを理由に招待されています。

続く３月14日には、勅任官（明治憲法下で勅旨により任命される高級官吏〈『国史大辞典』〉）以上の人々と、陸海軍の佐官（大佐・中佐・少佐）相当以上が新年会に招かれています。この時は81名を招待し、35名が来邸しています。

このほか、山口県出身知事も毛利家に招かれています。明治22年２月15日条には、群馬県の佐藤与三知事ほか7名の知事と次官を招いて日本料理で饗した記事が見えます。毛利家と山口県出身知事とが関係を持ち続けていたことが窺えます。さらにこの宴席には山口県の原保太郎知事らも加わり、総勢10名が招かれました（「用達所日記」）。このように、山口県知事（古くは山口県令）に対しても、毛利家は関係維持に努めていたのでした。

《山口県から上京する人々》

東京の毛利邸を訪れるのは、高位高官の人々だけではありませんでした。明治7年10月５日と12日には、群馬県富岡製糸場で修練を積んだ工女が毛利邸を訪れています（5日には44名、12日には

尚歯会一件
（毛利家文庫9諸省545）

「尚歯会一件」は３冊に分かれ、明治17年から30年（例外として明治34年の会員死亡届）までの対象者名簿（参加者名簿も兼ねる）や、加入願や転居届などの各種書類を含む資料です。

毛利邸での式次第や招待状の雛形もあって、尚歯会についてより深く知ることができます。

4名）（「用達所日記」）。彼女たちは帰県の途次の訪問でした。

一方で山口県から新天地を求めて北海道へ渡る人々が、旅程の途中で毛利家を訪れています。明治17年３月28日には、毛利元徳夫妻と毛利元昭が揃って、移住する115名の人々に面会しています（毛利家文庫５忠愛公115「御奥日記」（19の６））。

また、明治23年には山口県の学生が上京した際、毛利邸を訪れた記事が散見します。この年は上野で第3回内国勧業博覧会が開催されていて（シート15参照）、彼らの上京が続いたのはその見学のためでした。５月１日の事例では、毛利元徳夫妻は揃って面会し、「演説」をしたとあります。学業修練への激励だったことでしょう。茶菓を与え、庭などの見学を許しています。さらに、弁当代として15円を下賜しています（前ページの写真）（「御奥日記」、「用達所日記」）。

《在京者の集まり》

「学生」をキーワードにすると、在京学生との関係もあります。学習院で学ぶ学生の内、山口県出身者は、毛利邸の庭園を拝借し、懇親会や運動会を催していました。明治28年10月18日の記事によれば、この会を「秀英会」と呼んでいたようです（「防長秀英会」と記した記事もあります）（「用達所日記」）。

こうした若者たちの集いに加え、70歳以上の高齢の人々の集まりである「尚歯会」という会がありました。

「尚歯会」は在京する「御旧臣」の者の内、70歳以上の男女を年1回、例外はありますが毎年４月に毛利邸に招き、長寿を賀して饗応、また盃と真綿を下賜しています（下表参照）。第１回となった明治17年は26名の参加とありますが、次第に参加人数も増加し、毛利元徳在世中では、明治28年に最も多い54名の参加がありました（「御奥日記」、「用達所日記」）。

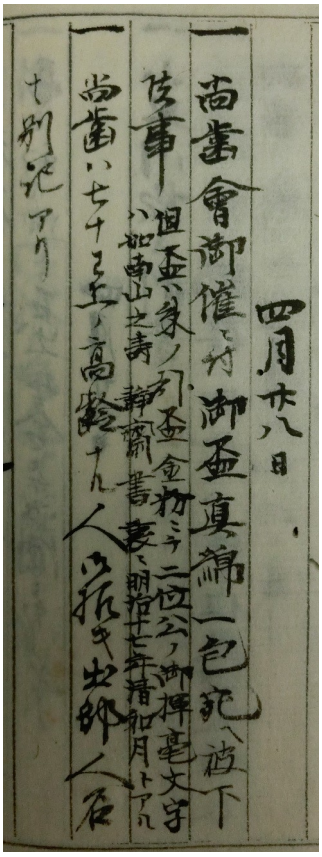
このように毛利家が山口県を離れても、山口県ゆかりの人々は、毛利家に集まり、つながりを保ち続けていたのでした。

四月廿八日

一、尚歯会御催ニ付、御盃・真綿一包宛へ被下（ママ）候事、但、盃八朱ノ引盃、金粉ニテ二位公ノ御揮毫、文字八如南之山寿、静齋書、裏ニ明治十七年清如月トアル、

一、尚歯八七十已上ノ高齢ナル人御招キ出邸人名者別記アリ、

毛利家文庫19日記65（30の9）用達所日記
明治17年4月28条より



第１回尚歯会の記事。毛利元徳（正二位公）の揮毫のある盃と真綿が下賜されています。

年	月日	参加者数	出典
明治17	4/28	26名	奥・用
明治18	6/18	33名	用
明治19	4/12	40名余	奥
明治20	4/20	40名計	奥・用
明治21	5/28	36名	用
明治22	4/30	42名	奥・用
明治23	4/5	48名	用
明治24	4/11	47名	用
明治25	4/2	52名	奥・用
明治26	4/8	50名	奥・用
明治27	4/7	48名	用
明治28	4/6	54名	奥・用
明治29	4/11	37名	用

尚歯会開催状況（明治17年～29年）
出典：奥）御奥日記
　　用）用達所日記